

舎人氷川神社の表忠碑

舎人氷川神社の参道を入って中ほどの右側に東郷平八郎書の表忠碑があります。この碑にまつわる話を書き残したいと思います。写真①は昭和十九年三月に撮ったもので奉安殿と隣に表忠碑が見えます。現在の舎人小学校に隣接して村役場があり、その校庭の南側に奉安殿と表忠碑があり、食料が不足してきたので校庭の一部を畑にしてジャガイモやサツマイモを作っている場面です。

終戦後、国よりの通達で両方とも撤去するようにと指示があり、町の人達は大変困ったそうです。何回か会合を開きましたが、中々名案がありませんでした。中には橋として使おうという話が持ち上がりました。しかし先日まで毎日お参りしていた表忠碑を橋にすることは何とも忍び難いと遺族会にも相談しました。

そうこうしているうちに戦後中国から軍人として帰国していた川村喜平さんが、急に世が変わったからと言って粗末にはできない、と引き受けることになったそうです。だが運搬する費用や機械などを出してくれる人がいないので、川村さんが自費を投じて鳶職の澁谷さんにコロで屋敷内に運んでもらったそうです。

昭和四十七年川村喜平さんが亡くなり相続が発生して、またも移転の話が持ち上がり、当時町会長であった島崎さんを中心に古千谷・入谷の方々にも相談した結果、舎人の氷川神社に移転することに決まり、移転の費用をまたも川村さんが全額自己負担したそうです。

また、奉安殿は平柳正治さんが引き受けて自宅の庭に祀ったそうですが、その後一時期入谷の方が祀っていたという話があり、今はどこに祀られているかわからないそうです。

表忠碑の内容については日清戦役、日露戦役、欧州戦役、戦病死者を顕彰・慰霊するものです。建設委員は吉岡斧四郎村長を筆頭に村名誉職の方々十七分会役員の二十一名・舎人小学校の杉田友次郎校長先生を顧問に置いて構成され、大正十年四月二十五日建之と書かれています。



この碑の建設にあたっては、舎人・入谷・古千谷の約三百名の寄付金者と延べ人数百七十五名の労力提供によってできたと刻まれています。

現在、碑についての説明文などありませんが、川村家が二代に亘って私財を投じて守ってきた功績と謂れを後世に語りつぎ、残していきたいと思っています。



写真①

表忠碑があった昭和十九年の舎人小学校の校庭